

学生にすすめる本

● 医学分館 2F 開架書架(第三) QZ200/GAN/1
QZ200/GAN/2

がん：4000年の歴史 上下

シッタールタ・ムカジー著；田中文訳
ハヤカワノンフィクション文庫



科学が発達するはるか以前の古代より我々を悩まし続ける“それ”はどのように呼ばれたか、理解はどのように変わったか、どのように攻略してきたのか。この本は“がん”という病気に対する人類の終わりなき年代記です。著者のムカジーは腫瘍内科医であり、闘病中のあるがん患者からこう問われました「私が戦っている相手の正体をしらなければならない」。この問いに対する著者の答えとして“がん”にまつわる文化、歴史、文学、政治の過去と未来が壮大な1つの物語として一般向けに書かれており、本書はピュリッツァー賞ノンフィクション部門を受賞しています。

“がん”とは密度の高い胆汁の塊であると長く信じられていた古代ギリシャ時代～中世から遺伝子異常を有する細

胞の病気であることが解明された1980年代までの変遷。現代医療黎明期の医師と患者の壮絶な戦いと失望。がん戦争とも呼ばれる国家によるがん制圧の試み。がん研究者の競争と製薬会社の台頭。講義や教科書で学ぶ科学、医学とは異なる視点の“がん”がこの本では語られています。

がんは日本人の死因の第一位であり、日本人の二人に一人はがん罹患するほど我々にとっては身近な病気です。本稿を書いているのはwith Coronaの真っ最中ですが、人類のwith Cancerの歴史も大変に面白いので、学部、学科、学年に関係なく本書を一読されることをおすすめします。



図書館の所蔵情報へ

● 本館 2F 新着書架 440.76
● 医学分館 2F 開架書架(第三) WS9/SUB

すべての人に星空を ：「病院がプラネタリウム」の風景

高橋 真理子著 新日本出版社



星空を見上げる時、私たちは何を思うでしょうか。好きな人のこと？日々の悩み？宇宙の果てしなさを、亡くなった人のこと…。星空はなぜか、私たちの心を解放し、そっと寄り添ってくれます。でも、長期入院等で本物の空を見上げることもままならず、一日の大半を白い天井を見上げて過ごしている患者さんたちは…。著者の「宙先案内人」高橋真理子さんは、山梨県立科学館のプラネタリウム解説員を経て「星空を届ける」「人と星をつなぐ」仕事を自ら生み出してきました。本書は『病院がプラネタリウム』の活動によって星に触れ、宇宙を旅した患者さんやそのご家族、医療スタッフの方々、そして高橋さんが共同代表を務める「星つむぎの村」の仲間たちが織り成す、奇跡のような現在進行形の物語です。

第2章「『病院がプラネタリウム』が生まれるまで」には、山梨大学附属病院小児科や院内学級も登

場、第6章には、この活動に触発されて病院プラネタリウムの自主企画を始めた大学生もたくさん出てきます。

また、高橋さんは梨大のキャリア教育の一環で毎年講演してくださっています。「皆が好きな事、あるいはほっておけない事を仕事にすることで、社会のありようも必ず変わってくる」という言葉には大きな説得力があります。ぜひ一度読んでみてください。そして今夜はぜひ、星空を見上げてみてくださいね。

★YouTubeで「星つむぎの村」検索すると、動画も沢山UPされています。ライブ配信で星空を届ける『フライングプラネタリウム』の実際の映像も見られるので、本と併せてぜひご覧ください。



図書館の
所蔵情報へ

